［別紙２］

論文審査の結果の要旨

申請者氏名　ムクハマド ナジブ
MUKHAMAD NAJIB

インドネシアでは、多数の食品加工中小企業が存在し、低所得の人々のために安価な食料を配布するとともに農村地域での雇用と所得の創出において重要な役割を果たしている。しかしながら、その競争力に関する要因および戦略に関する分析は十分に行われてこなかった。そこで、本研究は、食品加工中小企業の内部条件、外部条件、市場志向、イノベーションと経営成果との関係を分析することを通じて、インドネシアの食品加工中小企業の競争力の源泉を解明することを目的としている。

第１章において、競争力等の基本概念、理論、分析枠組みを明らかにした。

第２章において、インドネシアにおける食品加工業の概要を明らかにするとともに、マイケル・ポーターのダイアモンド・モデルに基づいて、西ジャワの食品加工業の競争力を規定する要因を整理した。

第３章では、研究対象地域である西ジャワの食品加工中小企業の競争力と戦略との関係について分析した。実態調査に基づいて収集した中小食品加工中小企業の経営データに対して構造方程式モデリングを適用し、経営戦略が経営成果に影響するプロセスを分析し、その影響力を定量化したが、同時に、一般的な「経営戦略－経営成果」分析による競争力の源泉に関する分析の限界を提示した。

第４章では、イノベーションが経営成果の向上をもたらすプロセスにおいて、企業と他の主体との間の協調関係の影響を明らかにした。協調関係の要因を導入した構造方程式モデリング分析の結果、食品加工中小企業と他の企業、政府、研究機関との間の協調関係が、製品、製造プロセス、マーケティングにおけるイノベーションを促進し、販売額、利益、市場シェア等の経営成果の改善につながることを明らかにした。

第５章では、競争力の内部要因に関して、企業の市場志向がイノベーションと経営成果に与える影響を明らかにした。市場志向として、顧客、競合他社、内部調整に対する志向を取り上げた。構造方程式モデリング分析の結果、これらの市場志向が、製品、製造プロセス、マーケティングにおけるイノベーションを促進し、販売額、利益、市場シェア等の経営成果の改善にすることを明らかにし、食品加工中小企業の競争優位の実現のうえで果たす役割を提示した。

第６章では、地理的近接性が企業の経営成果に与える影響を明らかにした。インドネシアの食品加工業における、クラスター形成の現状について調査するとともに、クラスター内の企業とクラスター外の企業の経営調査を実施した。調査によって得られたデータを基に、競争力の分析にクラスター形成の効果を導入した。その結果、クラスター形成と企業の市場志向、協調関係、イノベーションとの間には正の関係が確認され、クラスター形成が競争力の向上に寄与することを示した。

第７章において、食品加工中小企業６社に対するケーススタディを実施した。６社はいずれも成功企業と認定されているが、クラスターの内外から、それぞれ３社を選定した。現地調査によって、企業の具体的な経営戦略を把握するとともに、市場志向、協調関係、イノベーションの実態を企業の成長過程とともに分析し、クラスターの内外におけるこれらの要因の発現の違いを明らかにした。その結果、競争力の内部源泉である市場志向とイノベーション、外部源泉である協調とクラスターのいずれもが、インドネシアにおける食品加工中小企業の発展に寄与していることが示された。

第８章において、以上までの分析結果を総括するとともに、インドネシアにおける食品加工中小企業の発展に対する本研究の意義と政策的含意を提示した。

本研究の貢献として、第１に、食品加工中小企業の競争力を解明するうえで有効な分析枠組みを構築していること、第２に、インドネシアのような発展途上国における食品加工中小企業の競争力向上のための総合的アプローチを提案していること、第３に、理論的仮説を実際のビジネス活動の分析の中で実証的に検証していること、があげられる。

以上、本研究は、インドネシアにおける食品加工中小企業の競争力の源泉について、多様な角度からの実証分析を行い、その実態を解明するとともに、発展途上国の食料および食品産業政策に対する指針を提示するものである。この分析成果は、学術上、応用上資するところが少なくない。よって審査委員一同は、本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。